

第 III 章 調査の結果

1. 地方公共団体の属性

(1) 都道府県および政令指定都市

47 都道府県と 17 政令指定都市については、それぞれ 46 団体、16 団体から回答を得たが、本調査ではそれぞれを基本属性のひとつの類型として扱い、詳細の属性分析は行わない。

(2) 市区町村

市区町村(東京都 23 区を含む)については 1,390 団体から回答を得たが、人口規模や産業活動が大きく異なるため、以下の 6 属性指標別にクロス集計を行った。

- 人口規模:平成 19 年 3 月住民基本台帳人口
- 財政規模:平成 18 年度普通会計決算歳出額
- 農業活動:平成 18 年農業粗生産額
- 工業活動:平成 18 年工業製造品出荷額
- 商業活動:平成 18 年小売業商品販売額
- 自動車:平成 19 年 3 月乗用車保有台数

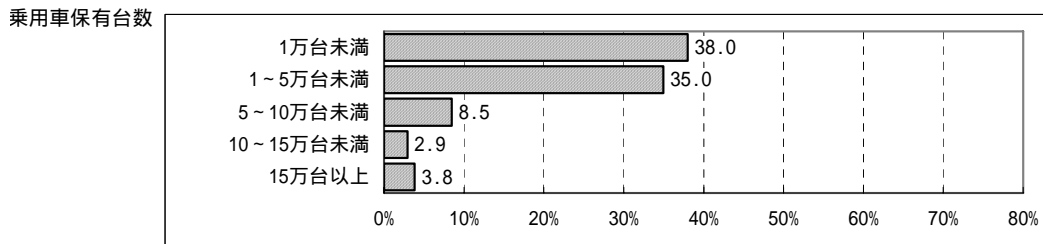
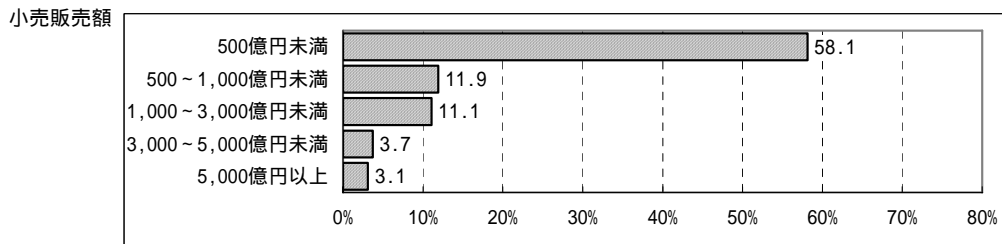
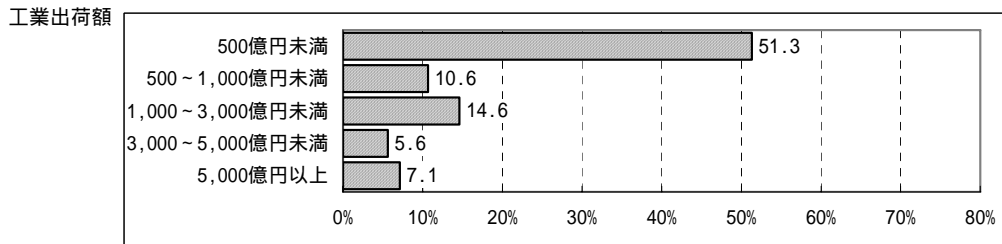
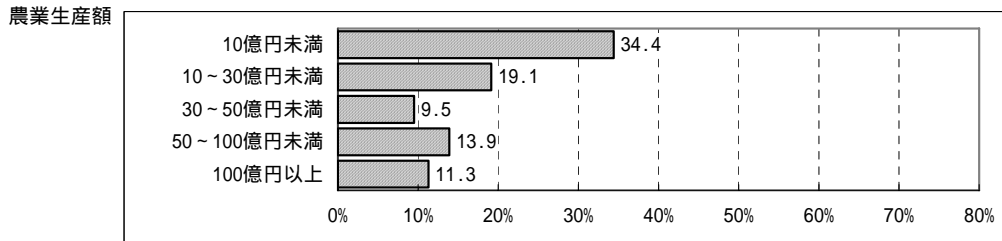
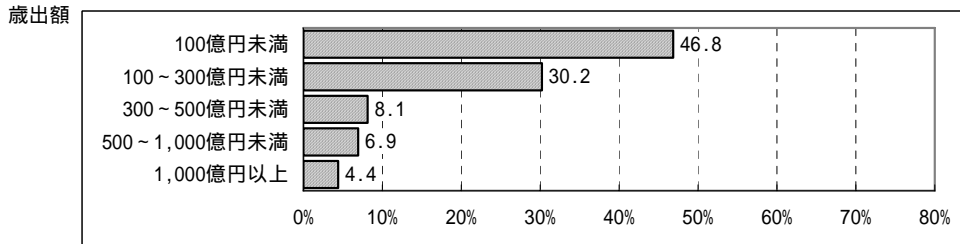
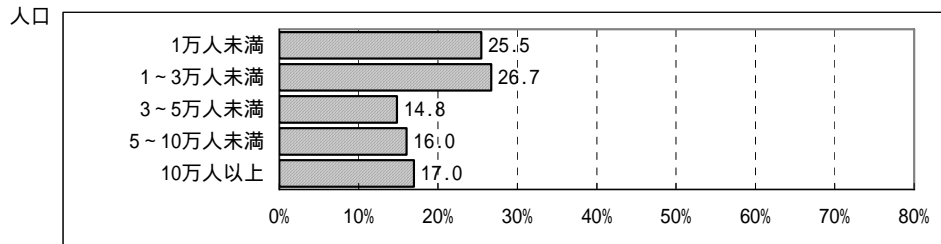
回答市区町村の属性分布

- 市区町村の 6 属性の分布をみると、人口を除いてすべての属性は、規模の最も小さい分類が高く、規模が大きくなるにつれてその割合はほぼ次第に低くなる傾向にある。
- 『人口』については、「1～3 万人未満」(26.7%)が最も多く、次いで「1 万人未満」(25.5%)、「10 万人以上」(17.0%)、「5～10 万人未満」(16.0%)、「3～5 万人未満」(14.8%)となっている。
- 『歳出額』については、規模が大きくなるにつれて割合が低くなる傾向が強い。最も規模の小さい「100 億円未満」が 46.8%を占め、次いで「100～300 億円未満」(30.2%)、「300～500 億円未満」(8.1%)、「500～1,000 億円未満」(6.9%)、「1,000 億円以上」(4.4%)と急速にその割合が減少する。『農業生産額』『工業出荷額』『小売販売額』『乗用車保有台数』についても、おおむね同様の傾向にある。

回答市区町村の人口規模と他属性との関係

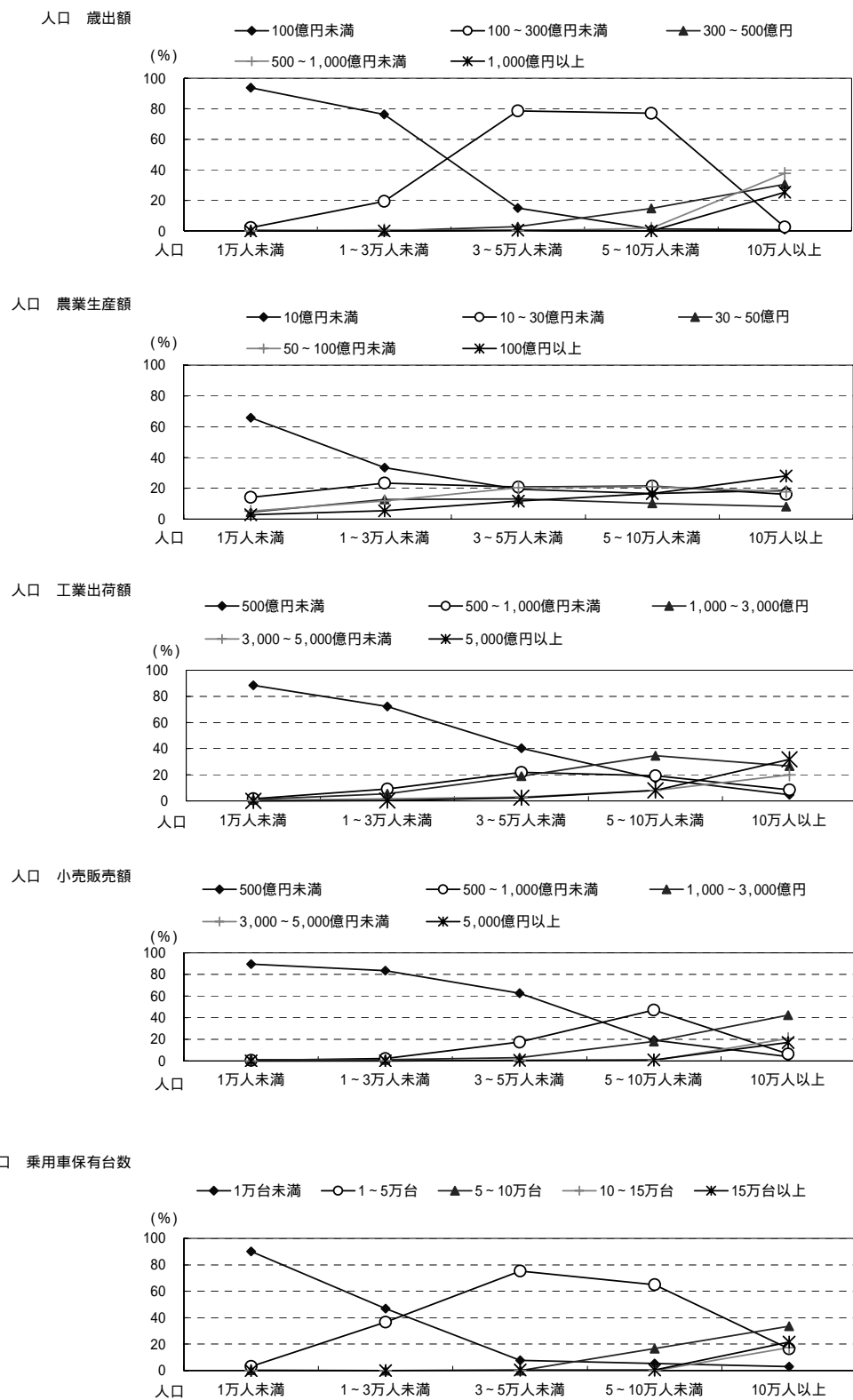
- 市区町村の属性を表す代表的かつ基本的指標は人口規模であるが、ここでは本調査で採用した他の属性指標との関係をもてみる。全体的には、人口規模が大きくなるにつれて、各属性指標においても、規模の大きい分類の割合が高くなる傾向がある。
- 人口規模が大きいほど、産業活動が活発で工業出荷額や小売販売額が大きく、歳出額や乗用車保有台数も大きくなる。特に、人口が 10 万人以上になると、いずれの属性指標においても、最も規模の大きい分類の割合が急増する。(ただし、農業生産額については、人口 3 万人以上になると生産額規模別の割合は大きく変化しない。)
- 以上のことから、以下の設問別分析における「市区町村の属性別の特徴」は、原則として、代表的指標である人口規模別に分析することとする。

図表 III-1 回答市区町村の属性分布(政令指定都市を除く)



(n=1,390)

図表 III-2 回答市区町村における人口規模と他属性の関係（政令指定都市を除く）



(n=1,390)